

令和3年度 月影保育園 施設の自己評価について

今年度も、コロナへの対策に追われた1年でした。年度当初に保育の全体計画、年間計画、月計画、週計画を子どもの発達状況に合わせ作成したが、計画した中身については、三密を避ける等の対応で隨時見直しをして行いました。

今年度も、行事や活動等は子どものために出来るだけ中止にせず、実施する方向で考えて行いました。まず前回の反省をして、それを踏まえて計画を立て、さらに活動の目的を確認し、本当に実施する必要性があるか、年齢別に分散してできないか等、中身を精査して実行するよう努力しました。

お散歩で季節ごとの植物を見つけたり、畑や花壇での野菜作り、椎茸栽培等の自然を生かした活動は、本園ならではの大切な活動なので、今年度も実施前後の手洗い、うがい、マスクの着用等で対応しながら実施しました。今後も、他の園にない本園ならではの体験活動は、コロナ禍でも実施出来るよう工夫していきたいと思います。

保育室は、換気のため各部屋に空気清浄器を設置し、常時窓を開けておくようにしました。消毒も隨時行って行きました。そんな中でも、子どもたちは遊びを工夫し、元気に活動していました。また、室内や廊下に不必要的ものは置かないようにし、自然の風が入るようにしました。屋外での遊びは、健康面での配慮からマスクの着用は不要としました。

マスク越しですが、保育者の子どもへの言葉かけ、表情など、お互いに注意し合って、明るく、温かいものにしていくようにしました。保育者の何気ない一言が、子どもにはきつくなじむこともあります。普段から言葉掛けには全職員で気をつけるようにしています。

今年度も、コロナの対策に追われた感じもありました。しかし、昨年同様にマイナスに考えずに、良い機会と捉えて保育の見直しについて全職員で確認しあいました。毎年やっているからと中身を見直さず行っている行事や活動は、ほとんどなくなり、本当に子供のために必要なものを必要な内容で行うようにしました。

身体測定、おつとめ、避難訓練等は、安全に配慮しながら毎月行い、子供をしっかり見つめ、子どもの成長・変化を捉える場にしました。運動会、生活発表会については、今年も全員で行う形から、時間差でクラス毎に行う形に変えました。今後も、より中身の濃いものになるよう実施方法を工夫して行きたいと思います。

コロナ対策で、本年度も送迎時の保護者は玄関前までとしたために、担任と話す機会が大幅に減ってしまった。そこで、保護者面談を6月から7月にかけて期間を広げて実施しましたが、ゆっくり話せて良かったと職員にも保護者にも好評でした。今後もこういう機会は続けて設けて行きたいです。

以上の事を、全職員で自己評価しました。これをもとに、たとえコロナがあっても、工夫してさらに質の高い保育を目指していきます。

令和4年3月 月影保育園 園長 浅井 哲朗